

第3節

都市空間創造戦略～今後10年間の施策の方向性～

第2節で示した目指すべき都市空間を実現するため、今後、具体的に取り組む都市づくりの方向性を、都市空間の種別ごとに示します。また、主な取組を記載することで、将来の都市空間の姿をより明確に示していきます。

1 魅力ある市街地

(1) 複合型高度利用市街地

質の高い複合型の市街地形成を促進します。

再開発などによる多様な機能立地の促進

複合型の市街地形成を促進するため、再開発や緩和型土地利用計画制度の運用などにより、地区特性に応じて、集合型の居住機能と居住者の生活を支える多様な機能（商業等の生活利便機能、医療・福祉機能など）の立地を促進します。なお、再開発は、複合型高度利用市街地と都心、地域交流拠点での実施を原則とします。

||||||| 主な取組 |||

路面電車沿線、JR 篠路駅周辺、JR 苗穂駅周辺、新さっぽろ駅周辺、JR 琴似駅周辺、JR 手稲駅周辺など

札幌らしい景観まちづくりの推進

●景観に関する制度の見直し

札幌らしい魅力的な都市景観を形成していくため、札幌市都市景観基本計画¹⁹⁵、札幌市景観計画¹⁹⁶などの見直しを行います。また、特に良好な景観形成を図る区域として定める景観計画重点区域¹⁹⁷の新たな指定を検討します。

●地域特性に応じた景観まちづくりの促進

地域の特性に応じた魅力的な景観を形成していくため、市民・企業の景観に対する関心の喚起や、より主体的に関わる機会の創出などにより、景観まちづくりを促進します。

¹⁹⁵ 【札幌市都市景観基本計画】 市民、企業、そして行政が互いに協力して、札幌にふさわしい都市景観の形成を目指すために、平成9年（1997年）に札幌市が策定した計画。

¹⁹⁶ 【札幌市景観計画】 景観法第8条の規定に基づく景観計画（以下「景観計画」という。）として策定するものであり、景観ゾーンの景観形成方針と土地利用との一体的展開を図り、より実効性が高い景観施策を推進することを目的に、平成19年（2007年）に札幌市が策定（適用は平成20年から）した計画。

¹⁹⁷ 【景観計画重点区域】 景観計画区域（札幌市の場合、市域全域）の内、地区の特性を踏まえ、特に良好な景観の形成を図るべき区域。

まちづくりルールの策定支援

地域が主体となった住環境の保全などの取組を支援するため、住民の意向や自主的活動の熟度なども踏まえながら、地区計画¹⁹⁸などのまちづくりルールの策定に向けた地域の取組を支援します。

(2) 郊外住宅地

安心して暮らせる郊外住宅地を目指します。

利便機能の立地への対応や地域特性に応じた取組の推進

誰もが安心して日常生活を営めるまちづくりを進めるため、日常生活を支える利便施設が徒歩圏内に立地可能となるよう、土地利用計画制度の適切な運用を行います。

また、周辺の住環境への影響に配慮しながら、地域の特性や居住者のニーズに応じた機能（介護サービスや子育て支援、コミュニティ支援機能など）の導入に対応するため、市民や企業等が連携して地域資源を活用しながら生活環境の維持・向上を図る地域マネジメントの導入などを推進します。

さらに、良好な住環境の保全等を図るために、地域が主体となった地区計画などのまちづくりルールの策定に向けた取組を支援します。

地域の足を確保する取組の推進

自家用車への過度な依存を避けながら、地域での生活が維持できるよう、地域の需要に応じた路線バスルートの見直し等の運行の最適化を図る取組や、多様な主体と連携した生活交通を確保する取組などを推進します。また、ノンステップバス導入支援などによるバスの利便性向上を図ります。

※多様な主体と連携した生活交通を確保する取組としては、例えば以下のようなものが想定されます。
地域が主体となったボランティア運行、バス事業者との適切な役割分担による地域交通ネットワークの維持など

空き家などの活用

地域コミュニティを維持していくため、空き家等を活用した地域の居場所づくりを支援します。

また、今後、増加が見込まれる空き家や空き地を適切に管理・活用する新たな手法を総合的に検討していきます。

※新たな手法としては、例えば以下のようなものが想定されます。
民間の資金や取組の活用、公共的利用に対する所有者へのインセンティブ¹⁹⁹、コミュニティガーデン・菜園²⁰⁰、エネルギー創出の場としての活用など

¹⁹⁸ 【地区計画】 建物の用途、高さ、壁面の位置、敷地の規模など、地区のルールを定める都市計画。

¹⁹⁹ 【インセンティブ】 人の意欲を引き出すために、外部から与える刺激、動機付け、誘因。

²⁰⁰ 【コミュニティガーデン・菜園】 ここでは、未利用地などを活用し、地域住民などが協力しながらつくり出していく地域の「庭・菜園」をいう。

(3) 一般市街地

一般市街地の生活の維持・保全を図ります。

土地利用計画制度の適切な運用

戸建て住宅や集合型の住宅など、多様な居住機能と生活利便機能などが相互に調和して立地できるよう、適切な土地利用計画制度の運用を行うとともに、地域が主体となった地区計画などのまちづくりルール策定に向けた取組を支援します。

地域の足を確保する取組の推進 (再掲 106 ページ)

工業地・流通業務地を維持・保全します。

産業団地の適正な維持

工業や流通業務の操業環境の維持・向上を図るため、適切な土地利用計画制度の運用を行います。

2 活力があふれ世界を引きつける都心

都心の将来像を定めます。

都心まちづくり計画の見直し

都心の魅力を更に高め、世界からヒト・モノ・投資を引きつけるとともに、環境首都・札幌を象徴する環境低負荷型の都心を構築するため、将来の社会経済情勢の変化を見据えて、都心まちづくり計画の見直しを行います。

札幌の顔にふさわしい重点的なまちづくりを推進します。

都心のにぎわい・憩いの創出

● 交流拠点の整備

都心の魅力や価値の向上をけん引していくため、北海道新幹線の札幌延伸の進捗や、民間施設の建て替え動向などを見据えながら、新たな活動や交流の場となる札幌駅交流拠点、大通交流拠点、創世交流拠点の整備を検討・実施していきます。

||||||| 主な取組 |||

札幌駅交流拠点（北海道新幹線の札幌延伸を見据えた検討、北8西1地区の整備、北5西1地区の整備検討）、大通交流拠点、創世交流拠点（市民交流複合施設の整備、北1西1地区の整備、大通東1地区の検討）など

● にぎわい・憩いの空間の創出

都心の魅力と活力を向上させていくため、にぎわいや憩いの場となるオープンスペースの整備や、地下歩行空間・道路空間を活用した、にぎわいの創出などを進めます。

||||||| 主な取組 |||

北3条広場の整備、路面電車のループ化（サイドリザベーション²⁰¹）に合わせた沿道のにぎわい創出、南一条まちづくりの事業化検討、札幌駅前通地下歩行空間への沿道ビルの接続促進など

再開発などの積極的な展開

民間投資を最大限に活用した都心の機能向上を図るため、再開発などの積極的な展開を推進します。

||||||| 主な取組 |||

北8西1地区、南2西3南西地区（狸小路）、北4東6地区（中央体育館）、北1西1地区（創世1.1.1区）、北2西4地区（旧三井ビル）、北5西1地区の検討、鉄道線以北エリア（北6東3周辺など）のまちづくりの検討など

創成川以東地区のまちづくりの推進

都心にありながら、低利用な土地が多いなどの課題を抱える創成川以東地区の再生を図るため、この地区を今後の都心まちづくりの重点地区と位置付け、居住を中心に様々な機能が身近に構成される利便性の高いまちづくりを推進します。

||||||| 主な取組 |||

北4東6地区、鉄道線以北エリア（北6東3周辺など）のまちづくりの検討、東4丁目線の機能向上等の検討など

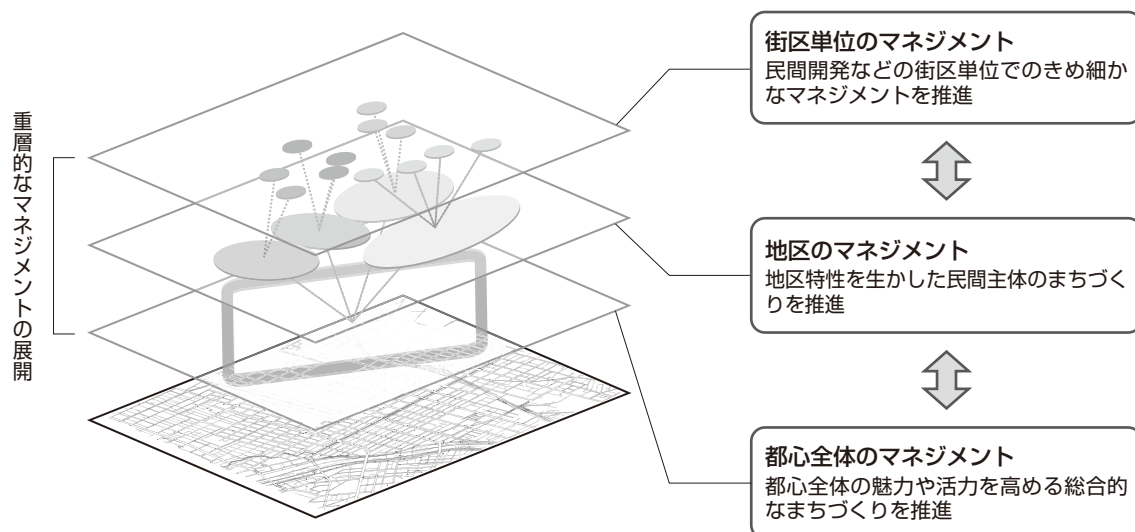
重層的なマネジメントによるまちづくりの推進

民間開発の誘発による都心の活性化を図るため、開発事業者とまちづくり会社²⁰²や地域のまちづく

²⁰¹ 【サイドリザベーション】軌道を道路の端に寄せて敷設し、歩道から直接路面電車に乗降可能となる整備方式。

²⁰² 【まちづくり会社】必要な収益事業を実施しながら、自ら活動資金を生み出し、具体的かつ確実にまちづくりに取り組む組織。行政には無い経営感覚や民間の視点・発想と、地域が共有したビジョンに基づき、地域の活用と管理を展開することで、まちの資産価値や魅力を高め、持続的で多様な都市活動を創出するほか、更なる民間投資の誘発を目指す。札幌市においては「札幌大通まちづくり株式会社（平成21年設立）」と「札幌駅前通まちづくり株式会社（平成22年設立）」が存在している（平成25年4月現在）。

り組織等との連携強化への支援などにより、様々な主体が連携した重層的なマネジメントによる都心再生のまちづくりを積極的に推進します。



都心の回遊性の向上や交通環境の改善を図ります。

回遊性を高める多様なネットワークの強化・拡大

市民や来訪者の快適な回遊性を高めるため、路面電車のループ化や、再開発・沿道ビルの建て替えなどの機会を捉えて、地下歩行空間への接続や空中歩廊・民有地におけるオープンスペース²⁰³の整備などを促進するとともに、超高齢社会に対応した、積雪寒冷地にふさわしい安心・快適な歩行空間を確保するため、地下歩行ネットワークの拡大の検討を進めます。また、交通環境の改善を図るため、都心を通過する自動車を効果的に抑制するための道路機能強化や、過度な駐車場整備を誘発しないための既存施設の有効活用などの駐車場設置の在り方などを検討します。

||||||| 主な取組 |||

路面電車のループ化、西2丁目地下歩道の整備、札幌駅前通地下歩行空間への沿道ビルの接続促進、南一条まちづくりの事業化検討、豊平川通延伸の検討など

自転車利用環境を改善する総合的取組の推進

都心の良好な景観創出を図るとともに、歩行者の安全な移動を支えるため、駐輪場の整備・拡大や、自転車の放置禁止区域の拡大など、総合的な自転車利用環境の改善策を進めます。

²⁰³ 【オープンスペース】ここでは、公園、広場、河川、農地、建築物の敷地内の空地など、建築物などによって覆われていない空間をいう。

||||||| 主な取組 |||

再開発を活用した駐輪場の拡大（北1西1、南2西3）、公共駐輪場の整備、自転車等放置禁止区域の拡大、駐輪場附置義務条例の見直し、走行空間の明確化の検討、自転車利用に関するルールやマナーの周知・啓発など

先進的・積極的なエネルギー施策の展開を図ります。**エネルギー施策に関する将来像の検討**

エネルギー消費量が多い都心において、官民の協働により、環境負荷の低減を図るとともに、災害時などでも安定的な都市活動を継続していくため、行政と民間の役割分担を示すなど、都心のエネルギー施策に関する将来像の検討を進めます。

エネルギーネットワークの強化・拡大

効率的で安定したエネルギー供給を支えるため、既存のエネルギーネットワークも活用しながら、エリア単位での自立分散型エネルギー供給拠点の整備と、これらの供給拠点と建物などを結ぶネットワークの構築を促進します。

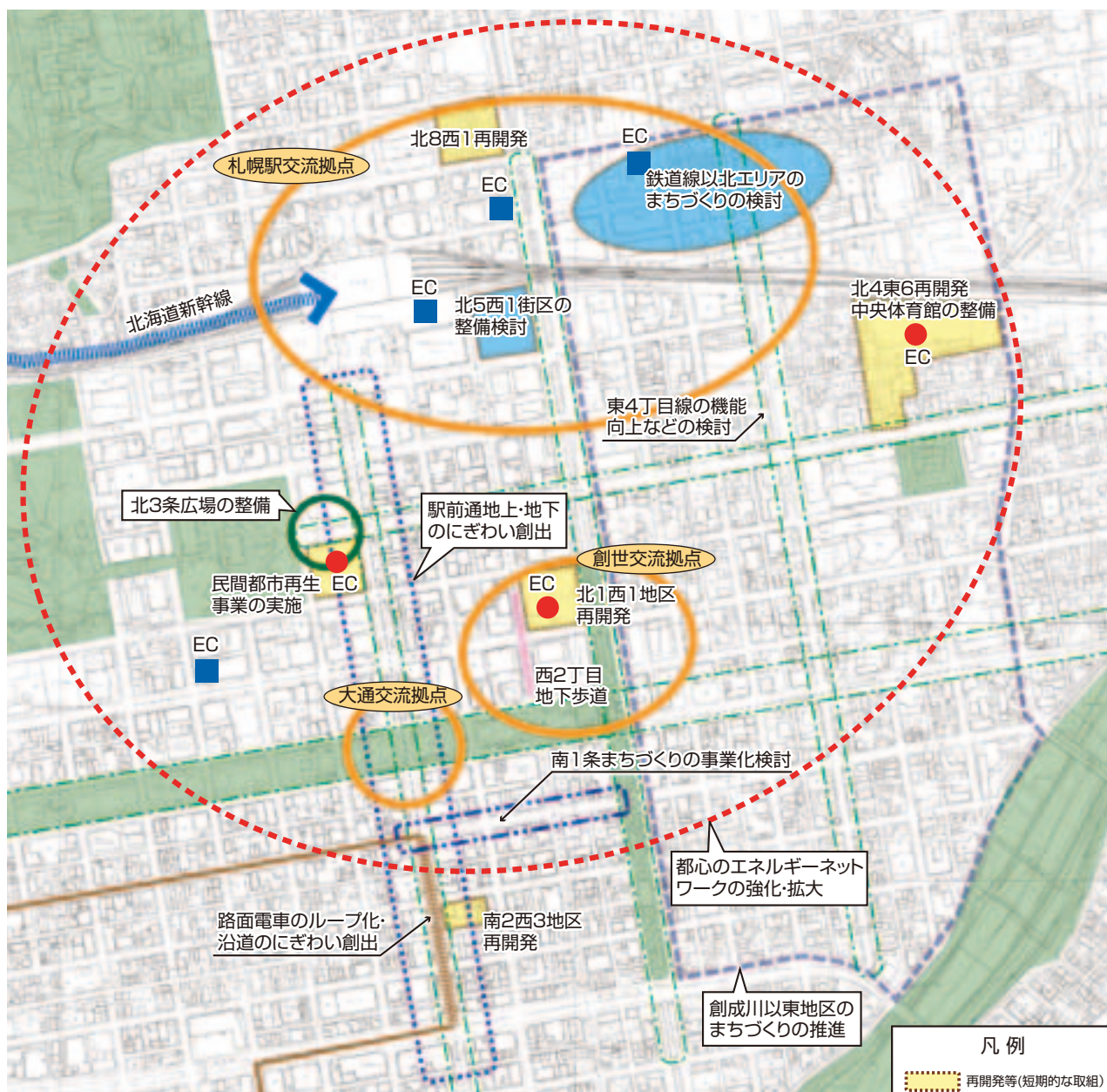
||||||| 主な取組 |||

北2西4地区（旧三井ビル）、北8西1地区、北1西1地区（創世1.1.1区）、北4東6地区（中央体育館）など

エネルギーマネジメントの促進

都心のエネルギー供給の最適化を図るため、熱需要者であるビルのエネルギーネットワークへの接続や、ビル単位でのエネルギー管理システムの導入、建築物の低炭素化などを促進する仕組みを構築します。

今後 10 年間の都心での主な取組



凡 例	
	再開発等(短期的な取組)
	まちづくり・整備の検討
	駅前通地上地下のにぎわい創出
	南1条まちづくりの事業化検討
	創成川以東地区のまちづくりエリア
	骨格軸・展開軸
	交流拠点
	都心のエネルギーネットワークエリア
	地下歩道の整備
	路面電車のループ化
	路面電車(既設)
	北海道新幹線(予定)
	拠点的なみどり
EC(エネルギーセンター)	
	新設予定
	既存

3 多様な交流を支える交流拠点

(1) 地域交流拠点

地下鉄駅周辺などの機能向上を促進します。

再開発などによる都市機能の誘導

拠点機能の向上を図るため、再開発や緩和型土地利用計画制度の運用のほか、様々な制度や支援策の運用などを通じて、特に、超高齢社会の到来に対応した多様な都市機能（商業などの生活利便機能、区役所などの公共機能、医療・福祉機能など）の誘導を図ります。

||||||| 主な取組 |||

JR 篠路駅周辺、地下鉄白石駅周辺（白石複合庁舎の整備）、地下鉄新さっぽろ駅・JR 新札幌駅（以下「新さっぽろ駅」という。）周辺、地下鉄真駒内駅周辺、JR 琴似駅周辺、JR 手稲駅周辺など

地下鉄始発駅（ゲートウェイ拠点）の重点的な整備の促進

後背圏の住民の交流や、周辺市町村や近隣の魅力資源等との連携などを促進するため、エリアごとのまちづくりの方向性を定めた上で、再開発などを積極的に誘導しながら、重点的な整備を促進します。

特に、新さっぽろ駅と地下鉄真駒内駅の周辺では、リーディングプロジェクト²⁰⁴として、大規模な土地利用転換などに合わせて、拠点の特徴を踏まえたまちづくりを進めます。

||||||| 主な取組 |||

○新さっぽろ駅周辺（厚別副都心地区）のまちづくり

新さっぽろ駅周辺（厚別副都心地区）は都心機能の一翼を担う先導的な拠点として位置付け、重点的なまちづくりを推進します。

- ・市営住宅余剰地等を核として、周辺地域なども意識した商業機能の充実や、超高齢社会に対応した健康・福祉産業を始めとする高度な業務機能の集積などの推進
- ・江別市や北広島市なども含む広大な後背圏の生活を支える拠点としてのまちづくりの推進
- ・地下鉄コンコースを中心とした歩行者ネットワークの充実と地下鉄の利用促進
- ・既存の熱供給ネットワークを活用した低炭素型まちづくりの検討
- ・新たなまちづくり計画の策定

○真駒内駅周辺のまちづくり

真駒内地域はもとより南区全体の拠点として、駅前地区の再生に向けた取組を展開します。

- ・旧真駒内緑小学校の跡施設を活用した多様な連携・交流の推進
- ・駅前地区を中心とした滞留・交流空間等の充実や土地利用再編の推進
- ・周辺の魅力資源への入り口にふさわしい場の形成の推進
- ・既存の熱供給ネットワークを活用した低炭素型まちづくりの検討

²⁰⁴ 【リーディングプロジェクト】先導的・横断的・戦略的な取組のこと。

快適な歩行空間の創出促進

高齢者を始め、誰もが冬期間でも安心・快適に移動することができる空間を創出していくため、再開発などを活用した地下鉄コンコースへの接続や、空中歩廊による駅への接続などを促進します。

||||||| 主な取組 |||

- ・地下鉄白石駅周辺（地下鉄白石駅と白石複合庁舎を接続）
- ・新さっぽろ駅周辺（地下鉄コンコースへの接続などを検討）
- ・地下鉄真駒内駅周辺（将来的な南区役所と地下鉄真駒内駅との接続などを検討）
- ・JR 苗穂駅周辺（JR 苗穂駅と空中歩廊による接続など）
- ・JR 琴似駅周辺（JR 琴似駅と空中歩廊による接続など） など

区役所等の拠点などへの配置

市民の生活利便性を向上していくため、今後の区役所の建て替えに当たっては、地域交流拠点や都心への配置を原則とし、地下鉄駅などとの接続による利便性の向上に努めます。

||||||| 主な取組 |||

白石区役所、南区役所など

(2) 高次機能交流拠点

都市機能をもつ取組を推進します。

活力や都市文化を高める機能の集積・高度化

活力ある産業の育成や豊かな都市文化の醸成などのため、それらを先導する高次の都市機能が集積する拠点として次の12箇所を位置付け、その機能集積や高度化に向けた取組を推進していきます。

円山動物園周辺

観光・環境学習・生物多様性の保全・市民の癒し空間などの拠点として、さらに、産・学・官の連携による環境負荷の低減など多様なメッセージの発信拠点としての役割を果たすための機能強化を図ります。

藻岩山麓周辺

藻岩山の豊かな自然環境や周辺の施設などを生かし、観光客や市民を引きつける魅力の向上を図ります。

北海道大学周辺

次世代型のエネルギー利活用や、新しい産業振興の源泉となる技術の研究開発、さらには活力ある企業や人材の育成などに向けて、産・学・官が協働して取り組むための中心的な拠点として位置付け、連携を図ります。

苗穂

都心への近接性を生かして、スポーツ・集客交流産業の振興や利便性の高い複合型市街地形成を図るため、中央体育館の整備等を進めるとともに、都心を含めた地域の回遊性を高める交通環境の整備や再開発などによる市街地整備を進めます。

東雁来

モエレ沼公園・サッポロさとらんどや豊平川に近接した地理的環境を生かし、子育て世代や高齢者が生き生きと暮らすまちを目指すとともに、環境負荷の少ない良好な住環境のモデル地区としての整備を進めます。また、食関連産業を始めとするものづくり産業などの集積を図ります。

モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺

文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動など、市民や来訪者の創造性を刺激する多様な活動の拠点として、水辺や農地、埋蔵文化財などを生かした良好な空間の更なる活用を図ります。

大谷地流通業務団地

団地の機能更新や高度化などにより物流の効率化を進め、交通混雑の緩和、環境への負荷や物流コストの低減に資する拠点としての役割の向上を図ります。

東札幌

集客交流産業の振興と活力ある企業や人材の育成を先導する拠点として、札幌コンベンションセンター²⁰⁵や産業振興施設、商業・業務施設などの更なる活用や連携を図ります。

札幌テクノパーク

エレクトロニクスセンターを核として、バイオや食関連を含めた研究開発拠点としての再構築を推進し、食やバイオ、ITが連携した産業・研究支援の強化を図ります。

札幌ドーム周辺

スポーツや集客交流産業の振興に関わる拠点性を高めるため、多様なイベントの開催や周辺の施設や空間とも連携するなど、更なる活用を図ります。

²⁰⁵ 【札幌コンベンションセンター】札幌市白石区に立地している国際会議や展示会、イベントなどが開催される総合型コンベンションセンター。

定山溪

豊かな自然環境を生かし、自然と共生した様々な体験が可能な宿泊・滞在型の観光拠点として、その魅力を高めるとともに、更なる活用を図ります。

芸術の森周辺

文化芸術の拠点として更なる活用を図るとともに、札幌市立大学との連携の強化や札幌アートヴィレッジ²⁰⁶への企業集積を図るなど、文化芸術や産業の振興、産・学・官連携による研究開発を促進します。

4 持続可能な都市を支えるネットワーク

(1) 交通ネットワーク

公共交通の利用促進を図ります。

地下鉄・JR 駅などの交通結節点の利便性を高める整備の推進

地下鉄や JR の駅における交通結節点としての利便性を高めるため、交通広場の整備や駅の移転橋上化とともに、自由通路や周辺の道路整備などを推進します。

||||||| 主な取組 |||

JR 篠路駅周辺のまちづくりに伴う基盤整備、地下鉄米町駅交通広場の整備、JR 苗穂駅の移転橋上化と周辺の基盤整備など

路面電車に関する整備などの推進

● ループ化やバリアフリー化の推進、延伸の検討

路面電車を更に活用していくため、路面電車のループ化を進めるとともに、沿線の道路整備や電停のバリアフリー化を推進します。また、3 地域（都心、創成川以東、桑園）への延伸の検討を進めます。

||||||| 主な取組 |||

ループ化の実施、沿線の道路整備（南 1 条通、西 7 丁目通、福住・桑園通）、電停のバリアフリー化の実施、3 地域への延伸の検討など

● 沿線の魅力づくりの推進

良好な街並みやにぎわいを感じる活動などによって、路面電車沿線の魅力を高めていくため、地域と協力しながら、沿線の魅力づくりの指針を作成し、景観まちづくりを推進します。

²⁰⁶ 【札幌アートヴィレッジ】札幌市南区に位置している、札幌の都市機能と雄大な自然環境を生かした芸術・文化系産業団地。

バス等の利便性向上に向けた取組の推進

バス等の利便性向上を図るため、地域の需要に応じた路線バスルートの見直し等の運行の最適化を図る取組や、多様な主体と連携した生活交通を確保する取組などを推進します。また、ノンステップバスの導入支援などによるバスの利便性向上を図ります。さらに、軌道系交通機関が整備されていない地域交流拠点である清田において、その拠点性を高めるため、バス待ち環境の改善など公共交通サービスの利便性向上などに努めます。

||||||| 主な取組 |||

地域交通計画の策定、ノンステップバス導入への支援など

新幹線を見据えた取組の推進

道内外をつなぐ広域的な交通ネットワークの充実を図るため、北海道新幹線の札幌延伸の円滑な事業推進、早期開業に向けた取組を進めます。また、新幹線の札幌延伸を見据えた札幌駅交流拠点の再整備検討や、都心へのアクセス性向上に向けた取組を進めます。

||||||| 主な取組 |||

札幌駅交流拠点の再整備検討、創成川通の機能強化検討など

骨格道路網などを強化します。

広域連携の強化と市内交通の円滑化

●骨格道路網などの整備

都市間・地域間連携や周辺の空港・港湾との連携を強化するため、骨格道路網や地域間をつなぐ幹線道路などの未整備区間の整備を推進します。

||||||| 主な取組 |||

環状通、米里・行啓通、宮の森・北24条通（（仮）北24条大橋）、道道札幌北広島環状線（屯田・茨戸通、（仮）札幌江別大橋）、国道337号（札幌大橋）、国道275号、山本通、札幌新道、清田通、道道西野真駒内清田線（盤渓北ノ沢トンネル）、国道230号、富丘通など

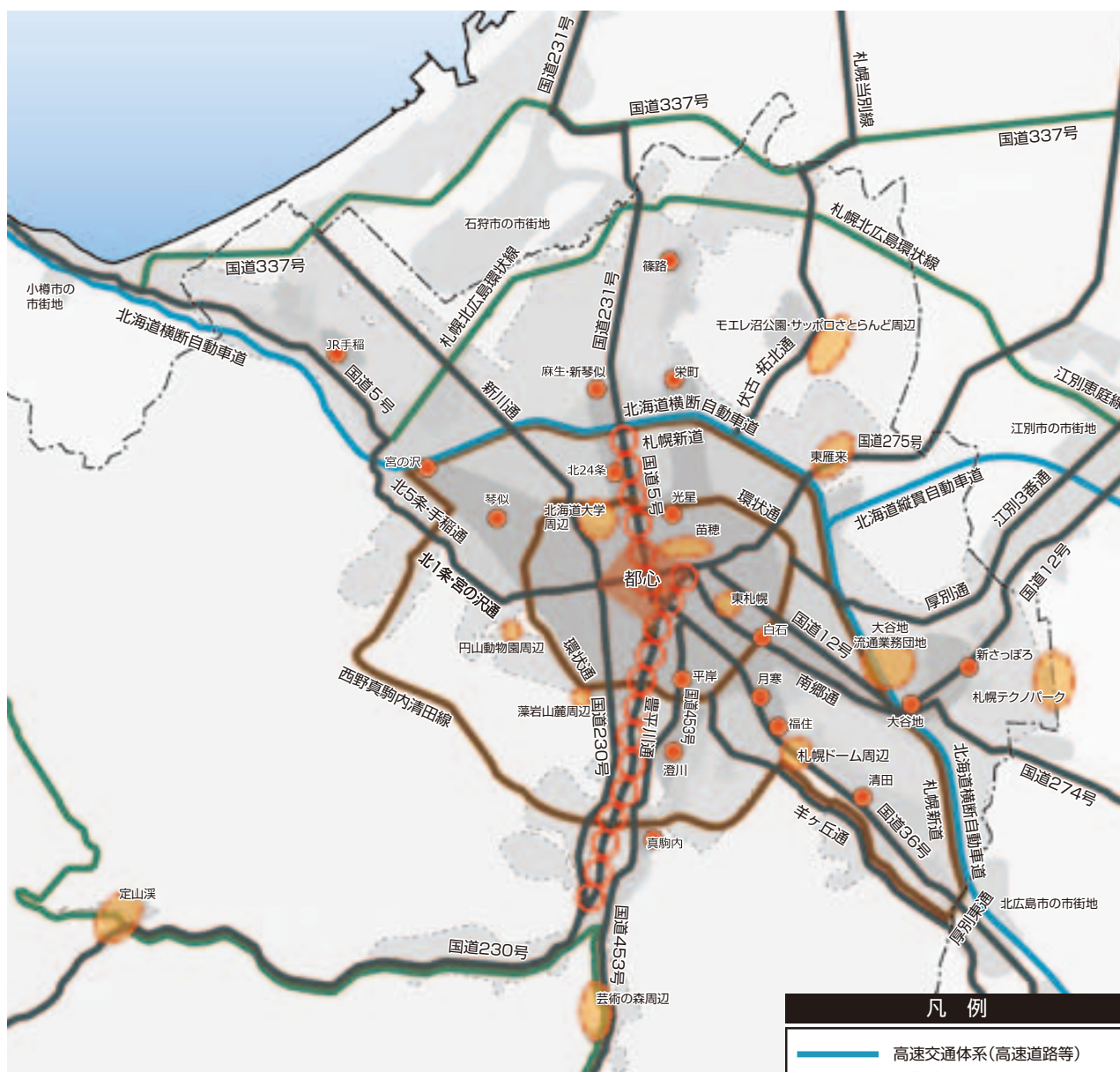
●都心アクセス強化道路軸の検討

高速道路などからの都心へのアクセス性を高めるため、都心アクセス強化道路軸の検討を、国とも連携しながら進めます。

||||||| 主な取組 |||

創成川通の機能強化検討・豊平川通の延伸検討など

骨格道路網図



凡 例

- 高速交通体系(高速道路等)
- 連携道路
- 環状道路
- 放射道路
- 都心アクセス強化道路軸
- ◆ 都心
- 地域交流拠点
- 高次機能交流拠点

はじめに

第1章

第1節

第2節

第3節

第2章

第1節

第2節

第3節

第3章

資料編

オープンスペースの整備や民間施設の緑化への支援

都心部をみどり豊かな潤いのある空間とするため、公共空間における花やみどりを主体とした北国らしい魅力ある景観づくりに取り組むとともに、再開発や緩和型の土地利用計画制度なども活用しながら、にぎわいや憩いの場となるみどり豊かなオープンスペースを整備します。また、民間施設の敷地内緑化や屋上緑化・壁面緑化を支援します。

||||||| 主な取組 |||

公共空間への緑化の推進、北3条広場の整備、民間施設における屋上・壁面緑化等への助成運用など

地域特性に応じた多様な担い手による農地保全の取組推進

農産物の生産のほか、良好な景観形成、健康づくり、レクリエーションの場など、多面的役割を持つ農地を保全し、その機能を生かしていくため、地域の特性に応じた多様な担い手による取組を推進します。

||||||| 主な取組 |||

観光農園等の振興に向けた関係者のネットワーク構築（協議会の設立）など

市街地のみどりの充実・ネットワーク化を推進します。

既成市街地へのみどりの創出

良好な都市環境を維持・創造するため、人口の増加により、身近な公園が一層不足すると予想される既成市街地への公園整備を進めます。また、再開発や緩和型の土地利用計画制度の運用などを活用し、みどり豊かなオープンスペースの創出を誘導します。

地域特性に応じた公園の機能再編・再整備

より市民に親しまれる公園としていくため、年齢構成の変化といった地域の特性や市民のニーズなどを踏まえ、地域住民と共に、公園の機能再編や再整備を進めます。

市民や企業との協働によるみどりづくりの推進

市街地のみどりの充実や地域の特色ある景観づくりを、地域コミュニティの醸成にもつなげるため、市民や企業との協働によるみどりづくりの活動を推進します。

(3) エネルギーネットワーク

都市開発等に合わせたエネルギーネットワークの構築などを促進します。

再開発などと連動したネットワーク構築の促進

自立分散型エネルギーネットワークを段階的に拡大し、エネルギー効率の高い都市を構築するため、大規模な再開発などと連動して、既存のエネルギーネットワークとの接続や、再開発の区域内におけるネットワークの構築などを促進します。

先進的・実験的取組の促進

地域単位でのエネルギー消費を効率化し、重層的なエネルギーネットワークを構築するため、スマートコミュニティの構築や、一定のエリアでエネルギーの共有やITを活用した一括管理を行うシステムの構築など、企業の先進的・実験的な取組を促進します。

都心で先進的・積極的なエネルギー施策の展開を図ります。

エネルギー施策に関する将来像の検討 (再掲 110 ページ)

エネルギーネットワークの強化・拡大 (再掲 110 ページ)

エネルギーマネジメントの促進 (再掲 110 ページ)

拠点におけるエネルギーネットワークの構築などを促進します。

既存の熱供給ネットワーク活用の推進

低炭素社会と脱原発依存社会の実現に向けた「環境首都」にふさわしいまちづくりを進めるため、新さっぽろ駅周辺、真駒内駅周辺において、既存の熱供給ネットワークを生かした効率的・安定的なエネルギー利用を検討・推進します。

ごみ焼却エネルギー活用の推進

ごみをエネルギー資源として効率的に活用するため、駒岡清掃工場の建て替えに伴い、ごみ焼却エネルギーのより効率的な回収システムを導入し、廃棄物発電や熱利用を推進します。

創エネルギーを推進します。

再生可能エネルギーの利用促進

●未利用地への再生可能エネルギーシステムの導入支援

再生可能エネルギーの利用拡大を図るため、ごみ埋立地や市街化調整区域の未利用地を活用して太陽光発電などの再生可能エネルギーシステムの導入を支援します。

||||||| 主な取組 |||

市街化調整区域、厚別山本ごみ処理場の活用など

●家庭・オフィス等でのエネルギーベストミックスの設置支援

スマートコミュニティの構築や、家庭・オフィス等における効率的なエネルギー利用の促進などにより都市全体のエネルギー利用の効率化を図るとともに、災害時の電源を確保するため、コージェネレーションシステムや蓄電池・再生可能エネルギーを効率的に組み合わせるエネルギーベストミックスのシステムの設置を支援します。

●広域的な再生可能エネルギーの普及促進

道内の豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルを積極的に活用して、安定的なエネルギー供給を促進するため、札幌市近郊における再生可能エネルギー導入の支援や風力・地熱・太陽光発電、バイオマスの熱利用などの広域的な活用の方向性の検討を進めます。

5 都市基盤の維持・保全と防災力の強化

都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全などを推進します。

都市基盤の維持・保全

ライフサイクルコスト²⁰⁷の縮減や更新費用の平準化²⁰⁸を図り、持続可能な都市運営を実現するため、将来の人口動態などを見据えながら、都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全を進めます。その際、市民生活を支える上下水道については、施設の更新や拡充を着実に進めるとともに、水環境の保全や水源の分散化にも取り組みます。

都市基盤の適切な再配置と活用

市有建築物の効果的・効率的な運用を図るため、人口動態や年齢構成の変化、市民ニーズ、維持管理費などを総合的に勘案しながら、機能の複合化や集約化、民間施設との連携といった手法による効果的かつ効率的な再配置などを進めるための基本方針を策定し、これに基づく取組を推進します。

²⁰⁷ 【ライフサイクルコスト】 製品や構造物などの調達・製造から使用、廃棄までの全般的な費用。

²⁰⁸ 【費用の平準化】 ここでは、集中する都市基盤の更新時期を分散させ、ある年度への更新費用の集中を避けることをいう。

特に、地域の一定の範囲に配置されている学校施設については、空き教室を活用した機能の複合化などにより、コミュニティ機能の集約化の検討を進めます。

また、上下水道の施設などの更新時には、エネルギー効率の高いシステムへの再編成や、既存施設を有効利用した発電設備の導入など、効率的、複合的な施設の活用を図ります。

災害に強い都市を構築します。

建築物の耐震化などの促進

災害に強い都市としていくため、住宅や多数の市民が利用する建築物の耐震化を促進するとともに、都心や地域交流拠点では、再開発等により災害時の帰宅困難者対策などを促進します。

また、災害時における市民の円滑な避難や迅速な救助・応急活動を可能とするため、防災拠点や収容避難場所となる建築物、緊急輸送路としての役割を担う道路の沿道に立地する建築物の耐震化を促進します。

災害に強い都市基盤の整備

地震や大雨などの災害時の被害を最小限に止めるため、道路や上下水道などの多重化²⁰⁹や耐震性・代替性の向上を図るとともに、雨水対策や消防水利の確保などを進めます。

||||||| 主な取組 |||

- 水道施設：浄水場²¹⁰・配水池²¹¹の耐震化、配水幹線の連続耐震化、水源水質の保全、水源の分散化、送水管の多重化、緊急貯水槽の整備など
- 下水道施設：汚泥圧送管の多重化、東雁来雨水ポンプ場・雨水拡充管²¹²・豊平川雨水貯留管²¹³の整備、雨水流出抑制の推進など
- 道路施設：橋りょうの耐震化・長寿命化²¹⁴など
- 河川：河川改修、流域貯留浸透施設²¹⁵の整備など
- 消防水利の確保：防火水槽の整備など

²⁰⁹ 【多重化】 上下水道の管路などのルートを複数設けることで、災害時に、ある管路が破損した場合でも、他の管路で送水などを補うことができるもの。

²¹⁰ 【浄水場】 河川から取り入れた水（原水）を安全で安心して飲める水道水に処理する施設。

²¹¹ 【配水池】 市内に配る水量を調整するために、一時的に水道水を蓄えておく施設。

²¹² 【雨水拡充管】 大雨時に浸水被害を軽減するため、雨水を速やかに流す管。

²¹³ 【雨水貯留管】 大雨時に浸水被害を軽減するため、雨水を一時的に貯める管。

²¹⁴ 【長寿命化】 適切な保全や改修を行うことで、施設をより長持ちさせること。

²¹⁵ 【流域貯留浸透施設】 洪水を防ぐため、公園や学校のグラウンドを部分的に掘り下げ、敷地内に降った雨水を一時的に貯留する施設。

今後 10 年間の主な取組



凡 例

- 地下鉄と地下鉄駅
 - JRとJR駅
 - 路面電車
 - 高速道路
 - みどりの軸(オープンスペース・コリドー)
 - ◆ 都心
 - 地域交流拠点
 - 高次機能交流拠点
- ＜想定される主な取組＞—
- ■ ■ ■ ■ 北海道新幹線(予定)
 - ■ ■ ■ ■ 都心アクセス強化道路軸(予定)
 - ★ 拠点の強化
 - ☆ 拠点の強化と共に市街地の再構築を進める
 - △ 交通ネットワークの強化
 - みどり空間ネットワークの創出